

地域と学ぶ

山形大地域教育文化学部

③

教育

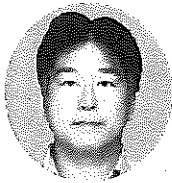
昨年度から山形大文化ホールでキャンパスコンサートを実施している。本年度は「地域と大学をつなぐ」をキーワードに、山形ゆかりの音楽素材を集めてプログラムを構成し、音楽芸術コースの学部生と大学院生が、山形で活躍する演奏家と共演している。

第1回は童謡「おうちまー」（「おうちまのおやこはなかよしこよし」）で知られ、日本人の女性作曲家第一号として活躍した山形市出身の松島舞（つね、1890～1985年）の作品

音楽科教育・地域音楽学 佐川馨教授

と、山形市を中心に活躍する作曲家・木島由美子氏の作品を取り上げた。12月12日が最終回で、高島町出身の童話作家・浜田広介の「泣いた赤おに」を素材にしたオペラを披露する。本学の特色の一つがオペラのカリキュラムで、学習成果を地域の音楽家との連携・協働

地元の音楽素材集め披露



▽1960年生まれ、秋田県出身。山形大着任は2012年。

子どもたちに音楽の楽しさを伝える
学部生
＝山形市・山形大小白川キャンパス



らうことを目的としている。プログラムの一例を紹介すると、ピアノ連弾や金管五重奏を解説付きで鑑賞。ペットボトルなどを活用してみんなで楽器を手作りし、「ドレミの歌」のアレンジを演奏している。終了後には、大学の中心で、お弁当やおやつを食べる。終了後は、大学の中心で、お弁当やおやつを食べる。

運営責任者の大久千賀子さん（音楽芸術コース3年）は「子どもたちに楽しんでもらうためにはどう工夫すれば良いのかを仲間と知恵を絞ることで、たくさん学びや新たな発見があった」と、取り組みの成果を実感している。

山形県は民謡やわらべ歌などの音楽素材の宝庫である。また山形北高音楽科や山形交響楽団があり、学校音楽教育や生涯音楽推進の視点からも全国的に注目される地域である。地域に着目し、地域と大学が連携・協働する取り組みは、山形に音楽を核とした学びの果実をもたらすことが期待できる。

11月1回掲載します